シリーズ
まち・ひと・しごと

Saima Dance Studio
#012　斉真流　斉真舞踊研究所

母から娘に受け継がれる“踊りのこころ”

利根町にゆかりのある人物や出来事、話題のお店などをご紹介している「シリーズ　まち・ひと・しごと」今回は、利根町羽根野台で、長年に渡り、子供から大人まで、多くの生徒たちに踊りやダンスを教えている「斉真舞踊研究所」創始者で家元の斉真千舟（さいませんしゅう）さん（本名：斉藤真由美さん）と、長女で師範の斉真桜舟（さいまおうしゅう）さん（本名：片山順子さん）のお二人にお話を伺いました。

母娘で歩んできた踊りの道

羽根野台の中心部を通るバス通り、中央公園の隣にそのダンススタジオはあります。

「斉真舞踊研究所（さいませんぶようけんきゅうじょ）」の創始者、斉藤真由美さんが、家族とともに東京から利根町へ引っ越してきたのは、今から約37年前のこと。分譲地として売り出された羽根野台が、建築ラッシュで賑わっていたころです。

町の人口が爆発的に増えていた時代、当時小学生だった、真由美さんの長女、順子さんが転入した文小学校では、毎月のように転入生が入ってきたそうです。

1．斉真舞踊研究所、家元　斉真 千舟さん（左）と、長女で師範の斉真桜舟さん（右）　2．生徒は、利根スタジオだけでも現在約 60 名。下は 2 才から上は 70 代の女性まで

「転入生って、もっと珍しがられると思ったけど、あの頃の利根町は、あまりにも転入生が多すぎて全然そんな感じはなかったですね（笑）」と順子さん。

真由美さんは、利根町の第一印象は「東京から一時間足らずの距離なのに、緑が多くて自然が豊か。田舎の良いところがたくさん残っていて、子育てをするにはとても良い環境。ここに住まなきゃ損だと思いました。」と、振り返ります。

高校卒業と同時に結婚をした真由美さんは、その後18歳でバレエや日本舞踊を習いはじめ、3人の子育てをしながら舞踊の名取りを取得し、都内で「斉藤真由美舞踊研究所」を創設しました。

当時、まだ2才だった順子さんが踊りを習いはじめたのもこのころで、重い日本舞踊のカツラをつけて初舞台に立ったのは4才だったそうです。

そして、利根町に拠点を移してからは、何度か場所を変えながら踊りを教え、18年前に「斉真流」を創流「斉真舞踊研究所」として新たにスタートしました。

1．桜舟さんの初舞台。当時4才（左）　2～3．夕方から始まるレッスンは、年代ごとに入れ替わり夜遅くまで続けられる。

笑顔があふれる楽しい稽古場

母、斉真千舟さんと、娘、斉真桜舟さんで築きあげてきた「斉真流」は、日本舞踊からはじまり、中国・韓国などの民族舞踊のほか、バレエ、ジャズダンス、ヒップホップなど、ジャンルにとらわれずに幅広くレッスンを行なっているのが特徴。

夕方、学校を終え、次々とスタジオにやってくる子供たちや、夜遅くまで稽古に汗を流す大人まで、生徒たちがみんな笑顔で、楽しそうに踊る姿からも分かるように、斉真舞踊研究所の指導方針は「稽古は楽しく、褒めて伸ばす」がモットー。

生徒たちが、みんな笑顔で活き活きとレッスンしていたのが印象的でした。

バレエ、日本舞踊、ジャズダンスなど、様々なジャンルの踊りを取り入れているのが斉真流ダンスの特徴

桜舟さんは、利根町のスタジオ以外にも、印西市の幼稚園や江戸川学園取手小学校のアフタースクールなどでも、子どもたちに踊りやダンスを教えている傍（かたわ）ら、町の教育委員会から依頼され、非常勤で体育代替の教員として、妊婦の先生に代わって、小学校で体育を教えています。

また、千舟さんは利根町公民館で、定期的に高齢者を対象とした健康体操を長年に渡り指導しているほか、昨年は、利根町観光協会イメージキャラクターとねりんの盆踊りソング「とねりん音頭」の振り付けを、お二人でプロデュースするなど、踊りを通して、町とも大変かかわりの深いお二人です。

3年に1度の夢の舞台

そんなお二人に、これからの夢を伺うと、「今年は、8月に、3年に1度の大きな舞踊公演があるので、今は、とにかくこの大舞台の成功に向かって、みんなで稽古に励んでいます。

この舞踊公演は、名取りたちの親子共演したいという夢や、いろいろな踊りを表現したいという生徒たちの夢など、みんなの夢がたくさん詰まった舞台です

今回の舞踊公演は、『夢２０１８』と題し、2才の子供から名取りまで、総勢104名が出演し、民族舞踊やKポップ、Jポップ、ヒップホップ、バレエ、日本舞踊などが次々と披露され、踊りに興味のない男性でも、飽きずに最後まで眠くならない（笑）プログラムを目指しています。

公演の後半には、出演者やお客さんが全員参加で踊る「とねりん音頭」も披露されますので、ぜひみなさんご来場ください。」とのことでした。

受け継がれる『踊りのこころ』

斉真舞踊研究所では、かつて桜舟さんがそうだったように、幼い頃から、ここで踊りを習い、やがて大人になり、名取りを取得。母となり自分の子供と同じ舞台に立つという教え子もたくさんいるそうです。

母、千舟さんから始まった『踊りのこころ』は、娘へ、そして、生徒たちみんなの夢へとつながっています。

斉真流舞踊公演　夢 2018

8月25日（土）柏市民文化会館

斉真舞踊研究所が３年に１度開催している「斉真流　舞踊公演」
子供から名取りまで、総勢 104 名が参加し盛大に行われます。

本番さながらで行なわれる舞台稽古、とねりんも参加して行われました。

斉真流　斉真舞踊研究所
利根町羽根野 850-152　☎ 68-8852
レッスン日（月・水・金）17：00～
HP www2.hp-ez.com/hp/saimadance

昨年オープンしたばかりの新スタジオ。見学や体験レッスンもできるのでお気軽にご連絡ください。